

【何かを手放せば何かを得る】

富山県にとって今年の梅雨は、空梅雨も空梅雨でしたね。寒暖の差は激しく体調を崩しやすい気候ではありましたが、梅雨とは名ばかりで殆ど雨の恵みがありませんでしたね。そんな中、皆様はいかがお過ごしでしたか？

私はと言えば、先月号でもご報告させて頂いた通り、任期満了に伴い様々な役職を退任して、真成寺での仕事に専念し、家族とのコミュニケーションの時間ができ、スクールではアンチエイジングに勤しむといった、ホッと一息の至福の時間を過ごしていました。そんな日々の生活に慣れてきたある日のこと、有り難いお話を頂戴しました。

「谷川上人には、是非ともお力添えを頂きたいと考えておりました。」と。私に立った一本の白羽の矢とは『全日本仏教青年会（全日仏青）』の理事という大役でした。

※《全日本仏教青年会（全日仏青）とは昭和五十二（一九七七年）に設立された、日本全国の宗派地域の垣根

を越えて活動する仏教青年団体です。日蓮宗をはじめ、天台宗・浄土宗・曹洞宗・真言宗・臨済宗など、全部で九宗派の全国青年会と四地域の仏教青年会が参加加盟しています。また、世界仏教徒青年連盟（WFBY）唯一の日本センターでもあり、全世界の仏教徒と交流を深めつつ、仏教文化の宣揚と世界平和の進展に寄与することを目指している団体です。》



ようやく真成寺という土壌で、地足を付けて頑張ろうと思っていた中で頂いたお話。役職が役職だけに、誰しもがなれるポジションではありません。もちろん心身共に大変な時間を過ごすことになるのも承知の上でした。ただこれも仏様から任命されたご縁と捉えた私は、二つ返事で「謹んでお受け致します」と了承させて頂きました。檀

信徒の皆様には、今まで以上にご迷惑をお掛けすることもあろうかと存じますが、何卒、任期満了まで温かい眼差しで見守っていただければ幸いです。どうか宜しくお願いします。

【捨てる神あれば拾う神あり】

と言うわけで、六月二十日は全日仏青の第一定期理事会を大阪で開催しました。魚津駅から朝一番のサンダーバードに乗車、勇んで大阪に乗り込みました。ところが大阪に到着して、地下鉄・御堂筋線の自動発券機で事件が勃発！

チケットを購入して改札口を目指して歩いていたら、目の前の男性が、財布から小銭をバラバラッ…足元に落つこととしてしまったのです。「これは大変！」とばかりに、周りにいた見知らぬ親切な方々が、お金を拾い集めはじめました。私も数枚拾い上げて、持ち主に返そうと顔を上げたら、「はい、どうぞ」と言わんばかりに、なぜか拾った小銭を私に手渡ししてくるではありませんか？

「え？どういふこと…？あれ？持ち主の姿が無い…？もしかして、私が落としたことになっているの…？」もう頭の中がパニック状態です。そして、

最後の一人が小銭を手渡してくれた時には、気持ち良く「サンキュー」って言うとききました（苦笑）。手伝ってあげようという気持ちに「サンキュー」ですよ。

【猿の壺（モンキーポット）】

話は変わりますが、「パラダイスナツツ」と呼ばれる木があります。あまり聞き慣れない名前ですが、これには別名がありまして、こちらの方が馴染みがあるかもしれません。「モンキーポット（猿の壺）」と言われています。ご存じありませんか？

この別名「モンキーポット」の由来は、その見た目から名付けられた様です。この木は蓋（ふた）が付いたような大きな実がなり、その蓋を開けると、中にはナツツがぎゅり詰まっているのです。見た目は「ポット（丸くて深い器）」です。では「モンキー」、つまりお猿さんの名前が付いた由来は次のような逸話が元になっています。

「パラダイスナツツ」をお猿さんが見つけて蓋を開けるとそこには、ナツツがぎゅり。中のナツツを手一杯に握りしめると、ナツツを握った膨らんだ手ではポットから抜けな

くなつたのです。もし手を抜きたいならば、その手に掴んでいるナッツを手放せば容易に抜けるものを、湧き出る欲がナッツを手放そうとしないので。「モンキー（猿）」が、「ポット（この場合の果実）」をぶら下げて歩き回る光景から「モンキーポット」の別名が付いたようなのです（笑）。ちなみに、モンキーポットとは別に「モンキーポッド」という木もあります。『日立』のコマーシャルでやっていました。「この木なんの木、気になる木」ってあれです。「ポット」と「ポッド」では全然違う木になりますので混同しないように（笑）。

実際、野生の猿を捕獲する方法として、モンキーポットの手法を用いる場合もあると伝え聞いたことがあります。

野生の猿を捕獲するために、口の狭い壺を使う方法があるそうです。

壺の中に美味しい豆類をたくさん詰めて放置しておく、欲張りなお猿さんは片手を深く壺に突っ込んで豆を掴めるだけつかみ出そうとします。口の狭い壺なので、豆類を握ったままでは手を抜くことはできません。

驚掴みにした豆類を手放せば良いものを、掌を開くと美味しそうな豆類が落っこちてしまいます。せつかく手にした食べ物、そうそう放棄できないのです。さりとて手を壺から引き抜こうとしてもなかなか抜けません。そんな事をしているうちに、易々と（簡単に）捕獲されてしまうというお話です。

【執着心】

これは他人事、いやいや猿事ではなく、私達にもシツカリ当てはまってしまふ真理かもしれませんよね。仏教にもちゃんと説かれています。仏教では執着について：事物に固執し、とらわれること。修行の障害になる心の働きなど、どちらかと言えば悪い方の意味で用いられます。

煩惱の一つ『執着心』という心の作用です。生きとし生けるものの苦しみを生み出す元が「執着」であり、そこからの開放が「悟り」だとも説かれます。私達にとつて「悟り」の境地に辿り着く事はそうそうできませんが、執着心を少しずつ解放していく努力はできるかも知れません。

執着というのは、何か一つの事に心をとらわれて、そこから離れられない事です。例えば、「こうでなければ絶対

に嫌だ。あれが絶対に欲しい：」等々。《欲しい。ほしい》と思う心は誰もが持っているし、時々刻々感じてしまふ感情とも言えるかもしれません。その思いが極端に強くなるのが執着というものですよね。そして、私達の持っている執着心と欲には、キリがありませんよね。握ったモノを決して放さない頑丈な意志を私達は具えています。私達人間は、あのお猿さんと同様で、何でも握りたがる癖を持っているとも言えるかもしれません。

あるお店を目指して並ぶ大行列に出くわす事があります。何の行列かと思えば、食べ物屋さんだったり、お土産屋さんだったり：。それも二時間待ちとか平気で並んでおられる。私なんかは、いくら美味しいとはいえ二時間もあれば、他で食事を済ませてくることもできるのになあ：。と思ってしまう。はたまた、誰そののコンサートともなれば、チケット購入に何倍もの高値で購入される方もおられる。具体的な例を挙げると、七月五日と六日には富山で『アイスショー』が開催されますが、目の前の一番良いお席で通常一万八千円で販売されていますが、オークションなどでは高値にも高値が付いて二十

万円という高値で購入される方もおられます。いくら良いとはいえ、執着する心を見直し点検する努力を心掛けたいですね。手一杯に握った執着心は、心配事も沢山握ってしまっているなんて事もありそうです。いつまでも固執して、握りしめた手を自由にしなければ、逆に自分自身を不自由にしてしまっている事もあるかもしれません。

皆様の心豊かな日々をお祈り申し上げます。

合掌

副住職 谷川寛敬

